観光関係事業者からの主な意見

資料３

新たな観光振興戦略プランの策定にあたり、より実践的・具体的な政策を検討するため、地域で実践的に取り組む観光関係者に対して個別にヒアリングを行った。

計画の役割

■県として目指す観光の姿を、事業者に示してほしい。
富山県として観光立県をどう目指すのかをまずは県が示し、事業者や地域のプレーヤーを巻き込んで進めてほしい。

■県と観光機構の役割を整理し、政策と実行を連携させてほしい。
政策・予算を担う部隊と、施策を実行する部隊が密接に連携し、事業者とも議論を重ねて取り組むことが必要。

■観光の成果を、数値だけでなく地域への効果から考えてほしい。
数値目標の達成・未達成の理由や、観光消費額の内訳などを検証し、次の施策につなげてほしい。数値目標の達成後に地域がどう変わったかを振り返ることも大切。

■明確なコンセプトと特色ある観光施策にしてほしい。
観光施策の目的や対象を明確に示すとともに、他地域との差別化につながる象徴的な施策を打ち出し、富山ならではの魅力や挑戦の方向性を分かりやすく発信していくことが重要である。

目指す将来像

■地域への誇りとウェルカム感のある観光地域づくり
富山ならではの自然や食、文化、暮らしの魅力を県民が再認識し、地域への誇りを持って発信するとともに、富山ならではの魅力や体験価値が国内外に広く伝わることで、地域住民と旅行者の双方が豊かさを実感できる、“ウェルカム感”のある観光地域づくりを進める。

■国内の旅行者をしっかり取り込み、その上でインバウンドを呼び込む。
国内の旅行者やリピーターの獲得を大切にしつつ、東南アジアも伸びており、今後もポテンシャルがあると感じている。一方で、海外に依存しすぎるのはリスクがあるため、国内外のバランスが重要。

観光関係事業者からの主な意見

観光施策

■広域周遊ルートの形成と滞在したくなる観光地域づくり
旅行者にとって県境は関係ないことを踏まえ、富山だけでは完結せず、五箇山、キャニオンルートなどを起点に周辺地域と連携した広域周遊ルートを形成し、滞在を支える受入環境づくりが大切である。

■多様なニーズに応じた受入環境整備
食の多様なニーズに応じた受入環境の整備を進めるとともに、ナイトタイムエコノミーの創出や夜間コンテンツの充実により、旅行者の満足度向上と滞在・宿泊の促進を図ることが重要である。

■富山らしい高付加価値・持続可能な観光の推進
「富山に何が残るのか」という視点のもと、少人数・高付加価値型の観光を重視し、ガイド付きツアーやオーダーメイドの旅行商品など、地域の人々や暮らしとの交流を通じた体験価値の高い観光を推進する。また、セカンドディスティネーションとしての魅力を高めていくことも有効である。

■観光需要の平準化とオールシーズン誘客の推進
閑散期には、国際会議や修学旅行の誘致等により観光需要の平準化を図るとともに、県内観光地の季節ごとの魅力を活かし、旅行者ニーズに応じた観光商品の造成と通年での誘客を推進することが大事である。

■富山ならではの観光コンテンツの磨き上げと魅力発信
自然や食、祭り、暮らしなど富山ならではの魅力を体験できる観光コンテンツを磨き上げるとともに、その価値を国内外へ発信し、旅行者の関心や来訪につなげることが必要である。

■二次交通の充実とアクセス環境の改善
国内外の航空路線や新幹線を活かした広域誘客と、「富山高山すし空港」の強みを活かしたアクセス向上を進めるとともに、二次交通の充実や旅行者にとって“足が見えない”課題の解消により、利用しやすい移動環境の整備を推進することが大切である。

■観光産業への投資促進と担い手の育成
クラウドファンディングや民間投資等を活用し、観光分野への新規参入や起業を後押しするとともに、持続的に活躍できる観光人材の育成・確保を図ることが重要である。

市町村からの主な意見

10月27日（火）　第２回「富山で休もう。」ワンチーム会議（オンライン）より

■高付加価値な観光商品の造成と地域への波及
伝統工芸をはじめとする地域資源を活かした高付加価値な観光商品の造成や、FIT・インバウンド向けの商品づくりを進めるとともに、観光の質や消費額の向上による効果が、観光関連事業者をはじめ地域全体へ波及する取組みが重要である。

■観光DXとデータに基づく観光マーケティングの推進
観光DXを推進し、SNS等を活用した効果的な情報発信やデジタルマーケティングの強化を図るとともに、アンケートや人流データ等の分析に基づく戦略的な誘客に取り組むことが重要である。また、外国人旅行者の行動把握やデータ収集・分析の充実により、インバウンド施策の高度化を進める必要がある。

■オーバーツーリズム対策の推進
庄川峡遊覧船や五箇山、立山黒部アルペンルート周辺などにおいて、旅行者の集中による住民生活への影響や利用マナーなどの課題が生じていることから、地域の実情に応じたオーバーツーリズム対策を進めるとともに、駐車場や二次交通などの課題への対応を図ることが重要である。

■受入環境の整備と多様なニーズへの対応
多言語案内や注意喚起の充実、事前予約制の導入やデジタルツールの活用を進めるとともに、ヴィーガン・ベジタリアンなど多様化する旅行者ニーズに対応し、誰もが安心・快適に滞在できる受入環境の整備が重要である。

■観光消費額と入込客数の拡大
観光消費額の拡大を図るとともに、地域経済の活性化に向けては、入込客数の増加にも引き続き取り組むことが重要である。